



第41回 秋田県消費動向調査

【概要】

1 昨年と比較した暮らし向きはやや悪化

「良くなった」(7.5%)が昨年調査(2024年10月実施)を1.0ポイント下回り2年ぶりに低下した一方で、「悪くなった」(40.0%)は昨年調査を1.2ポイント上回り2年ぶりに上昇した。

2 昨年と比較した世帯収入は改善のペースがやや鈍化

「増加した」(35.0%)は昨年調査を2.7ポイント上回り4年連続で上昇した。他方、「減少した」(19.5%)は昨年調査を3.0ポイント上回り4年ぶりに上昇した。

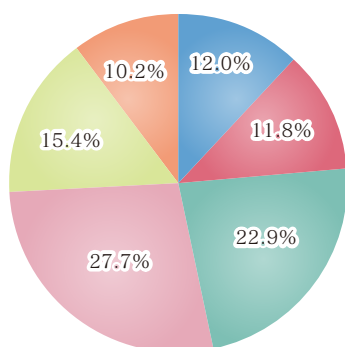
3 物価の上昇に収入の増加が追いつかず家計への負担は大きい

物価上昇による家計への影響では、「大きい」(46.1%)と「やや大きい」(42.9%)の合計は89.0%と、昨年調査(93.6%)から4.6ポイント低下したものの、引き続き高水準で推移している。また、物価の上昇に対する収入の増減では、「物価の上昇に収入の増加が追いついていない」(44.9%)が最も高くなった。

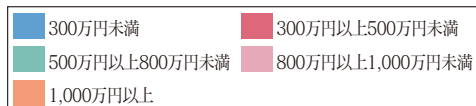
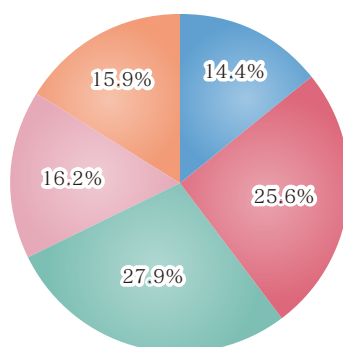
4 現在と比較した1年後の物価は上昇を予想

現在と比較した1年後の物価予想では、「やや上がる」(46.2%)と「上がる」(43.0%)を合わせた89.2%が上昇を予想している。

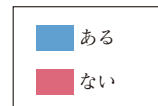
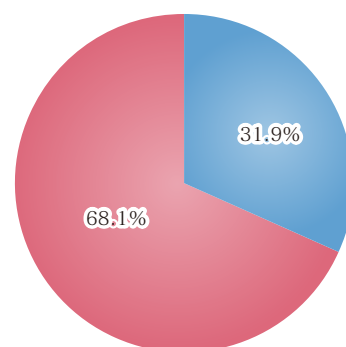
回答者の年代別内訳



回答者の世帯年収別内訳



回答者の住宅ローンの有無別内訳



《調査要領》

調査対象：県内世帯1,300世帯

調査方法：秋田銀行の本支店を通じて依頼

回答数：560世帯(回答率43.1%)

調査時期：2025年10月

$$BSI = \frac{\text{「増加した」または「良くなる」} - \text{「減少した」または「悪くなる」}}{\text{回答数}} \times 100$$

(注) 集計結果は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある

1 暮らし向き

(1) 昨年と比較した暮らし向き

やや悪化

「良くなった」と回答した世帯割合（7.5%）は、昨年調査（8.5%）を1.0ポイント下回り、2年ぶりに低下した（図表1）。

一方で、「悪くなった」（40.0%）は、昨年調査（38.8%）を1.2ポイント上回り、2年ぶりに上昇した。

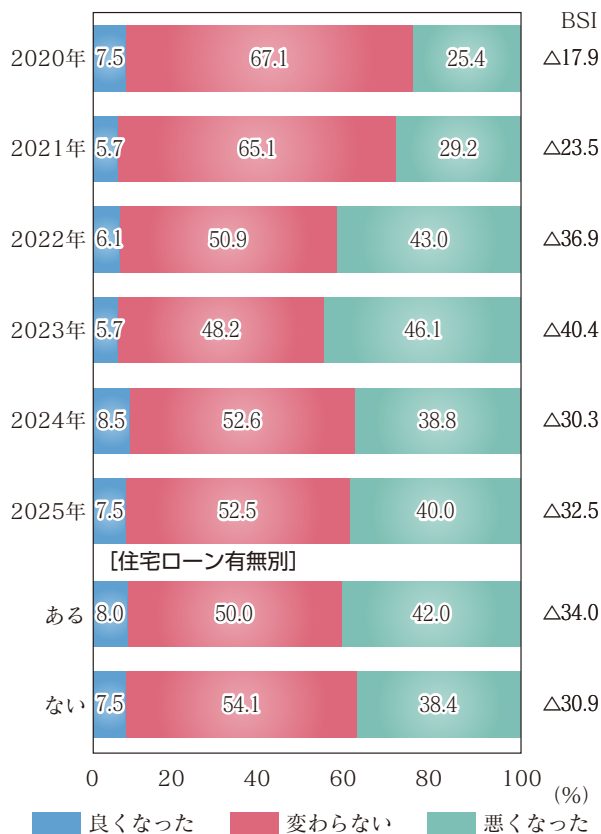
「変わらない」（52.5%）は、昨年調査（52.6%）とほぼ横這いとなった。

昨年と比較した暮らし向きは、改善世帯の割合が低下し、悪化世帯は上昇に転じたため、全体としてはやや悪化した。

暮らし向き得点は△0.4と、昨年調査（△0.4）から横這いとなった（図表2）。

年代別では、「良くなった」は30代以下のみ二桁となった（図表3）。一方で、「悪く

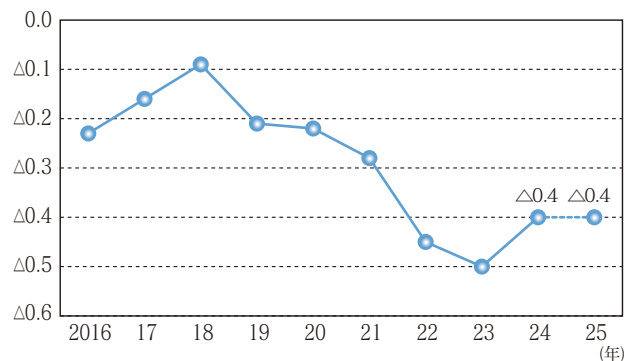
図表1 昨年と比較した暮らし向き



なった」は30代（25.8%）を除くすべての年代で3割を超え、60代（53.5%）で最も高くなった。

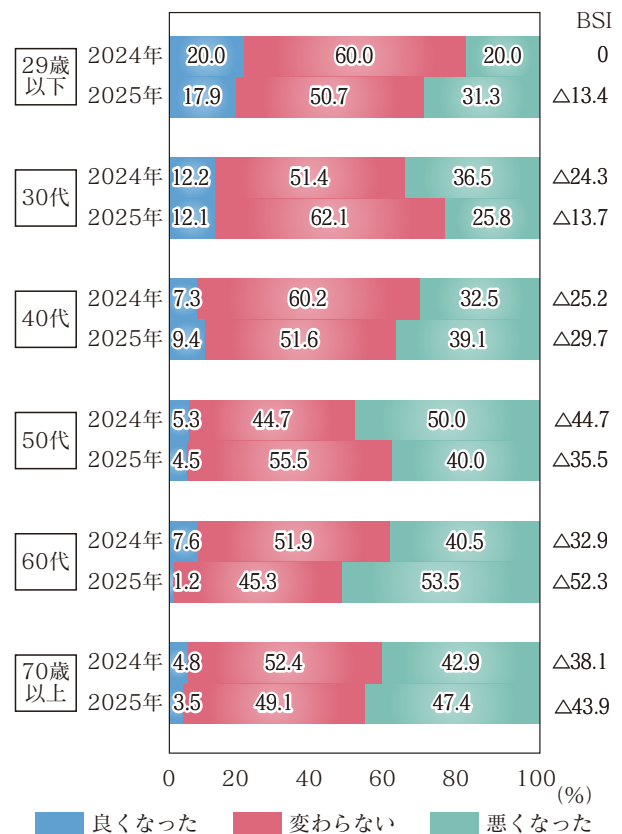
昨年調査との比較では、「良くなった」は40代（9.4%）を除くすべての年代で低下した。一方で、「悪くなった」は30代と50代（40.0%）を除くすべての年代で上昇した。年代別にみても、総じて暮らし向きは悪化していることがうかがえる。

図表2 暮らし向き得点



(注) 1 暮らし向き得点については5段階評価をした。「良くなった」2点、「やや良くなった」1点、「変わらない」0点、「やや悪くなった」△1点、「悪くなった」△2点とし、回答者数で加重平均した値である。
2 無効回答分は計算から除外

図表3 〈年代別〉昨年と比較した暮らし向き



(2) 今後1年間の暮らし向き

横這い傾向が強まる見通し

「良くなる」と予想する世帯割合（7.0%）は、昨年調査（8.0%）を1.0ポイント下回り、2年ぶりに低下した（図表4）。

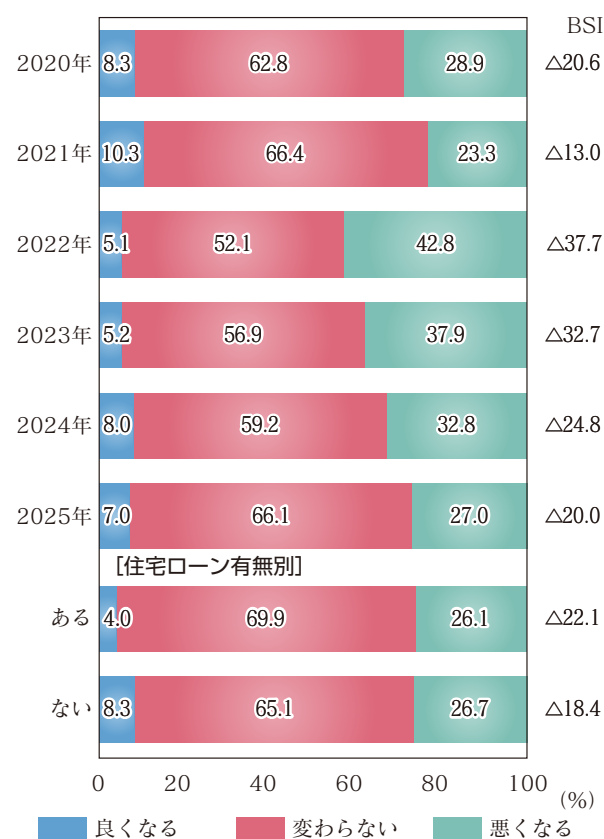
「悪くなる」（27.0%）は、昨年調査（32.8%）を5.8ポイント下回り、3年連続で低下した。

「変わらない」（66.1%）は、昨年調査（59.2%）を6.9ポイント上回り、3年連続で上昇した。

今後1年間の暮らし向きは、改善予想世帯の割合の低下以上に悪化予想世帯の割合が大きく低下したため、全体としては横這い傾向が強まる見通しとなった。

住宅ローン有無別では、いずれの世帯でも「悪くなる」が2割を超え、「良くなる」を上回った。

図表4 今後1年間の暮らし向き



2 世帯収入

(1) 昨年と比較した世帯収入の増減

改善のペースがやや鈍化

「増加した」と回答した世帯割合（35.0%）は、昨年調査（32.3%）を2.7ポイント上回り、4年連続で上昇した（図表5）。

「減少した」（19.5%）は、昨年調査（16.5%）を3.0ポイント上回り、4年ぶりに上昇した。

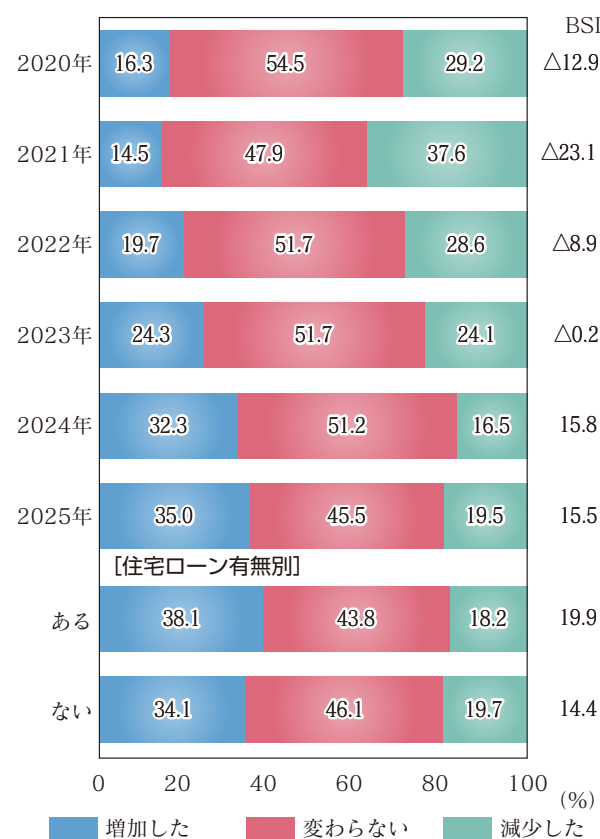
「変わらない」（45.5%）は、昨年調査（51.2%）を5.7ポイント下回り、2年連続で低下した。

世帯収入は、改善世帯の割合は上昇が続いたものの、悪化世帯も上昇に転じたため、改善のペースはやや鈍化した。

収入得点は0.14と、昨年調査（0.15）とほぼ横這いとなった（次掲図表6）。

年代別では、「増加した」は30代（60.6%）と29歳以下（56.7%）で5割を超え、他の年代を上

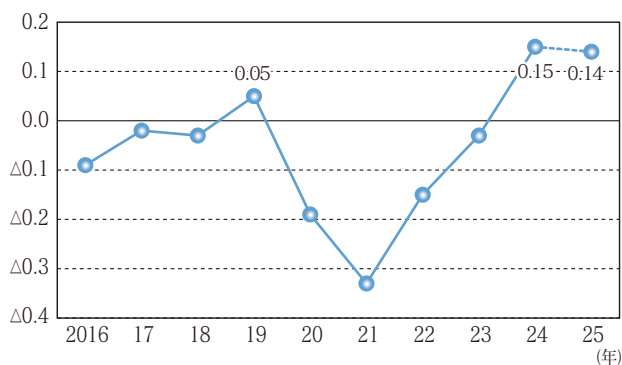
図表5 昨年と比較した世帯収入の増減



回った（図表7）。「減少した」は60代（34.9%）と70歳以上（31.6%）でのみ3割を超えた。

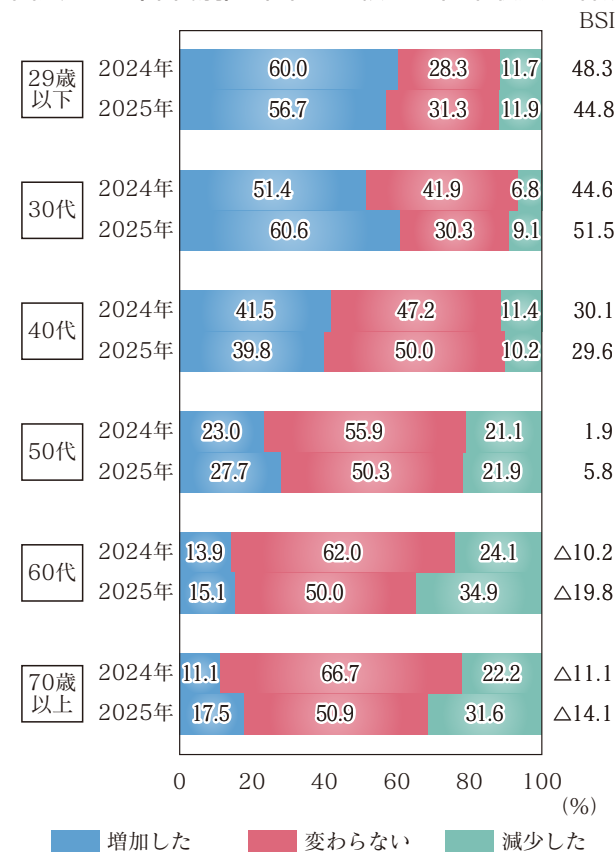
昨年調査との比較では、「増加した」は29歳以下と40代（39.8%）を除くすべての年代で上昇した。一方で、「減少した」は40代（10.2%）を除くすべての年代で上昇した。年代別にみると、30代では改善、60代、70歳以上では悪化がそれぞれ顕著となった。

図表6 収入得点



(注) 1 収入得点については5段階評価をした。「増加した」2点、「やや増加した」1点、「変わらない」0点、「やや減少した」△1点、「減少した」△2点とし、回答者数で加重平均した値である。
2 無効回答分は計算から除外

図表7 〈年代別〉昨年と比較した世帯収入の増減



(2) 来年の世帯収入（見込み）の増減

改善のペースが加速

「増加する」と予想する世帯割合（19.6%）は、昨年調査（15.8%）を3.8ポイント上回り、3年連続で上昇した（図表8）。

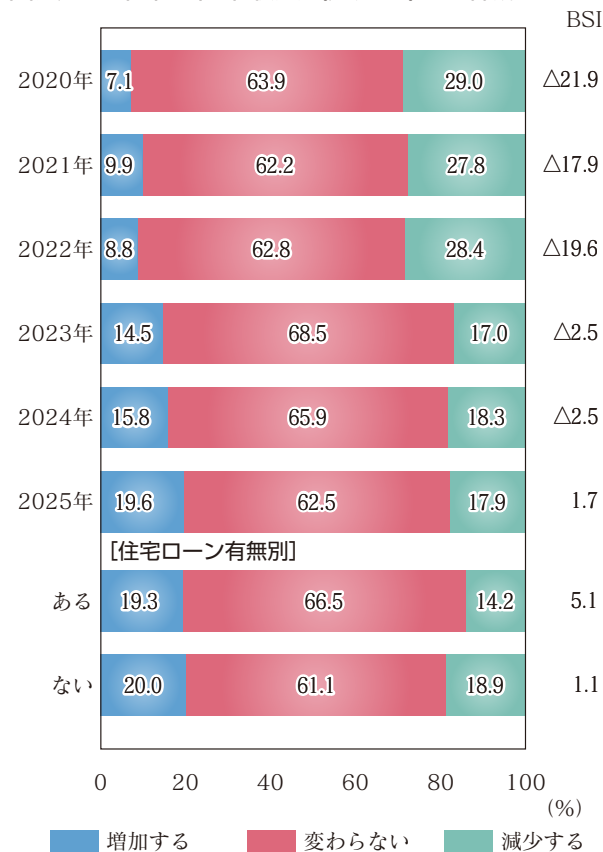
一方で、「減少する」（17.9%）は、昨年調査（18.3%）を0.4ポイント下回り、2年ぶりに低下した。

「変わらない」（62.5%）は、昨年調査（65.9%）を3.4ポイント下回り、2年連続で低下した。

来年の世帯収入は、増加予想世帯割合の上昇は昨年調査と比べて一層鮮明となり、改善のペースが加速する見込みとなった。

住宅ローン有無別にみると、ローンのない世帯では、「増加する」「減少する」ともローンのある世帯を上回った。

図表8 来年の世帯収入（見込み）の増減



3 生活費

(1) 1か月当たりの生活費

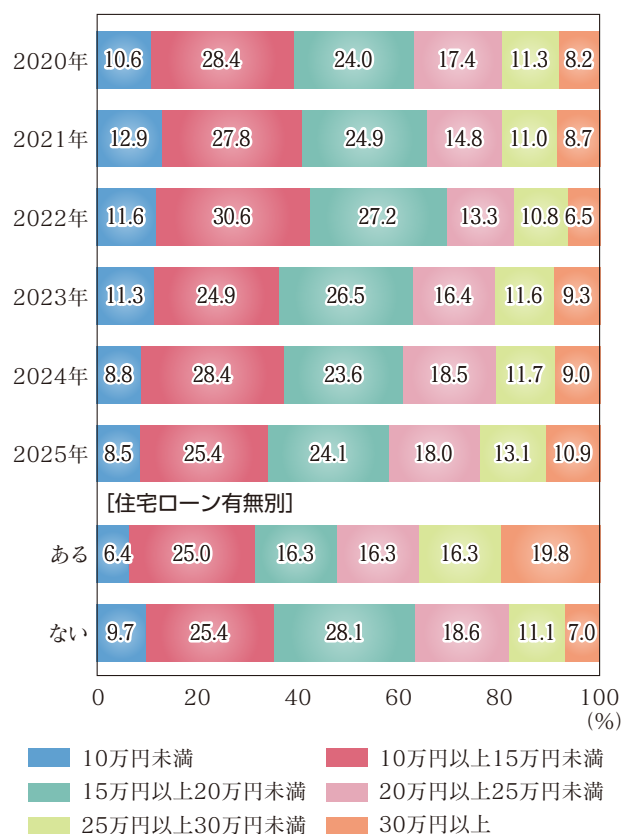
平均生活費は昨年調査比0.6万円増

「10万円以上15万円未満」(25.4%)と「15万円以上20万円未満」(24.1%)が2割を超え、他の区分よりも高くなった(図表9)。

昨年調査との比較では、「15万円以上20万円未満」が0.5ポイント、「25万円以上30万円未満」(13.1%)が1.4ポイント、「30万円以上」(10.9%)が1.9ポイント、それぞれ上昇した。このうち、「25万円以上30万円未満」は3年連続で上昇した。反面、「10万円未満」

(8.5%)は0.3ポイント、「10万円以上15万円未満」は3.0ポイント、「20万円以上25万円未満」(18.0%)は0.5ポイント、それぞれ低下した。このうち、「10万円未満」は4年連続で低下し、昨年調査(8.8%)に続いて1割を下回った。

図表9 1か月当たりの生活費



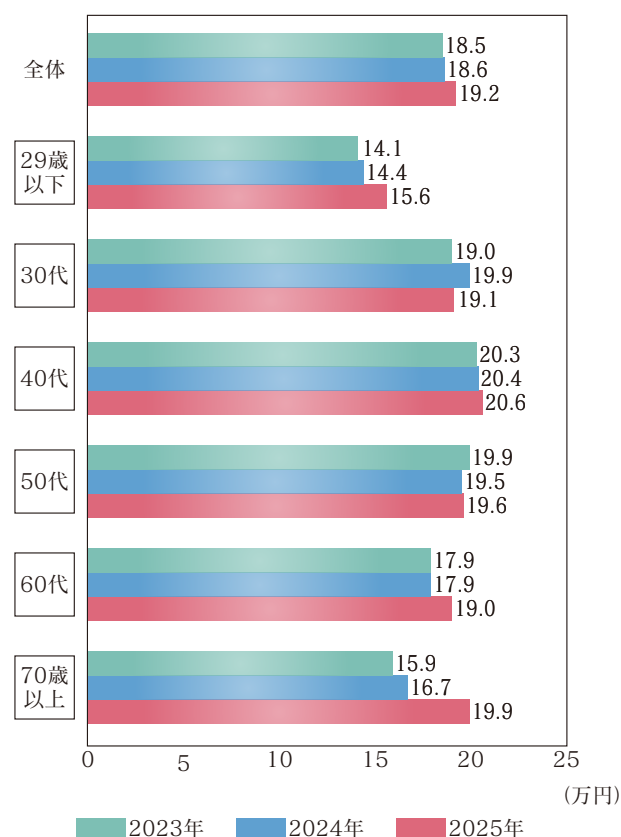
住宅ローン有無別にみると、ローンのある世帯では、回答割合が高い順から、「10万円以上15万円未満」(25.0%)、「30万円以上」(19.8%)となった。ローンのない世帯では「15万円以上20万円未満」(28.1%)と「10万円以上15万円未満」(25.4%)のみが2割を超えた。

1か月当たりの平均生活費は、全体で19.2万円と、昨年調査(18.6万円)から0.6万円増加した(図表10)。

年代別では、40代(20.6万円)が最も高く、次いで、70歳以上(19.9万円)、50代(19.6万円)、30代(19.1万円)、60代(19.0万円)、29歳以下(15.6万円)の順となった。

昨年調査との比較では、30代を除くすべての年代で増加し、増加幅は大きい順から、70歳以上で3.2万円、29歳以下で1.2万円、60代で1.1万円となった。一方で、30代では0.8万円減少した。

図表10 〈年代別〉1か月当たりの平均生活費



(2) 昨年よりも支出が

「増えた」費目・「減った」費目

「食料費」の支出増に回答が集中

昨年よりも支出が増えた費目

支出が「増えた」割合は、「食料費」(81.6%)が抜きんでて高く、「水道光熱費」(53.8%)、「交通・通信費」(19.1%)が続いた(図表11)。

年代別では、いずれの年代でも「食料費」「水道光熱費」への支出が「増えた」割合が高くなった(図表12)。他の費目では、50代で「交通・通信費」、60代以上で「保健医療費」の基礎的支出の割合が高くなった以外は、広い年代で「外

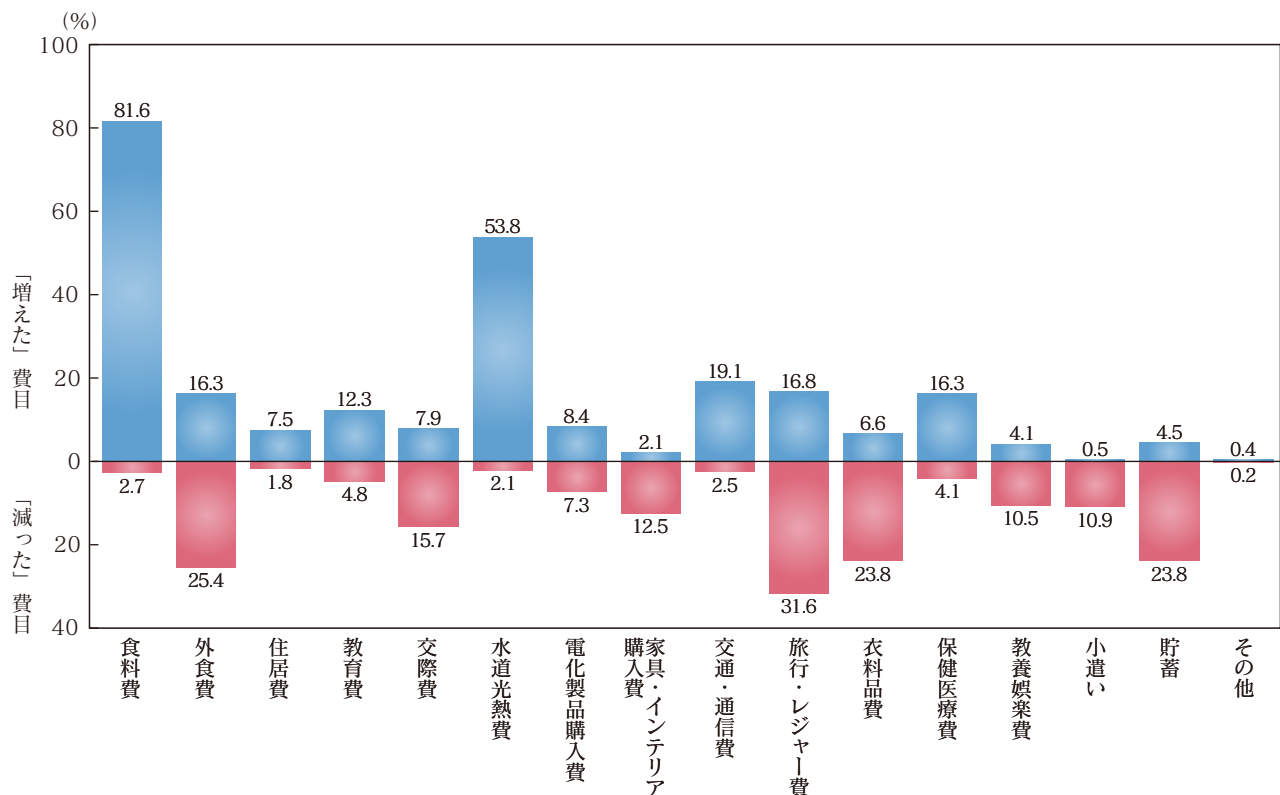
食費」「旅行・レジャー費」など選択的支出の割合が高くなった。

昨年よりも支出が減った費目

支出が「減った」割合は、「旅行・レジャー費」(31.6%)が最も高く、次いで、「外食費」(25.4%)、「衣料品費」(23.8%)、「貯蓄」(23.8%)で2割を超えた。

年代別に支出が「減った」割合をみると、いずれの年代でも「旅行・レジャー費」が高くなったほか、29歳以下、40代、60代以上で「外食費」が高くなった。また、50代以下で「貯蓄」、50代以上では「衣料品費」の割合が高くなった。

図表11 昨年と比較して支出が「増えた」費目・「減った」費目(複数回答)



図表12 年代別の昨年と比較して支出が「増えた」・「減った」上位3費目

	支出が「増えた」費目				支出が「減った」費目		
	1位	2位	3位		1位	2位	3位
29歳以下	食料費	水道光熱費	旅行・レジャー費	29歳以下	外食費	貯蓄	旅行・レジャー費
30代	食料費	水道光熱費	外食費	30代	旅行・レジャー費、貯蓄 (同順位)	衣料品費	
40代	食料費	水道光熱費	教育費	40代	旅行・レジャー費	貯蓄	外食費
50代	食料費	水道光熱費	交通・通信費	50代	旅行・レジャー費	衣料品費	貯蓄
60代	食料費	水道光熱費	保健医療費・外食費	60代	外食費	旅行・レジャー費	衣料品費
70歳以上	食料費	水道光熱費	保健医療費・外食費	70歳以上	旅行・レジャー費、外食費 (同順位)	衣料品費	

(3) 今後の家計支出

慎重姿勢が続くもやや増加に転じる見通し

「引き締める」と回答した世帯割合(68.8%)は、昨年調査(72.2%)を3.4ポイント下回り、2年ぶりに低下した(図表13)。

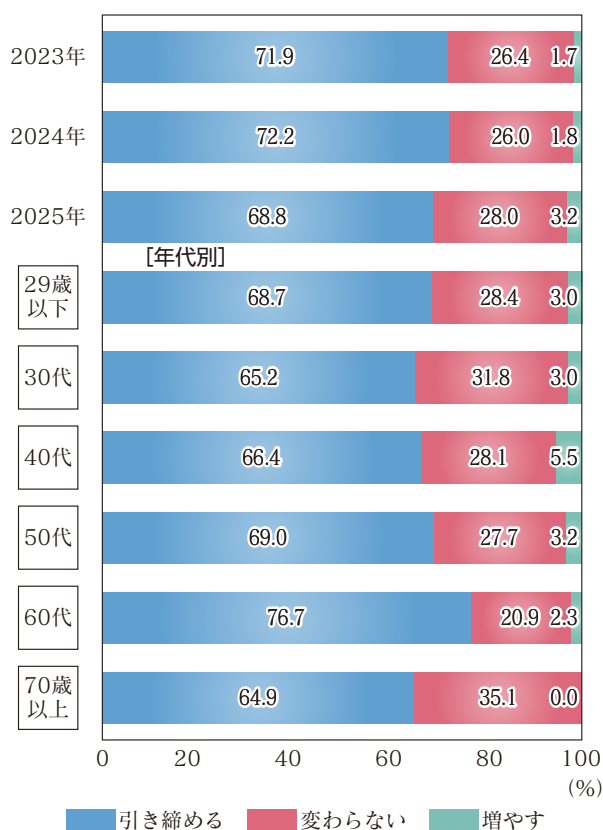
一方で、「増やす」(3.2%)は、昨年調査(1.8%)を1.4ポイント上回って2年連続で上昇した。

「変わらない」(28.0%)は、昨年調査(26.0%)を2.0ポイント上回り、2年ぶりに上昇した。

今後の家計支出は、支出への慎重な姿勢が続くものの、昨年調査比ではやや増加に転じる見通しとなった。

年代別では、「引き締める」は60代(76.7%)でのみ7割を超えた。「変わらない」は70歳以上(35.1%)と30代(31.8%)で3割を超え他年代を上回った。「増やす」は40代(5.5%)で

図表13 今後の家計支出



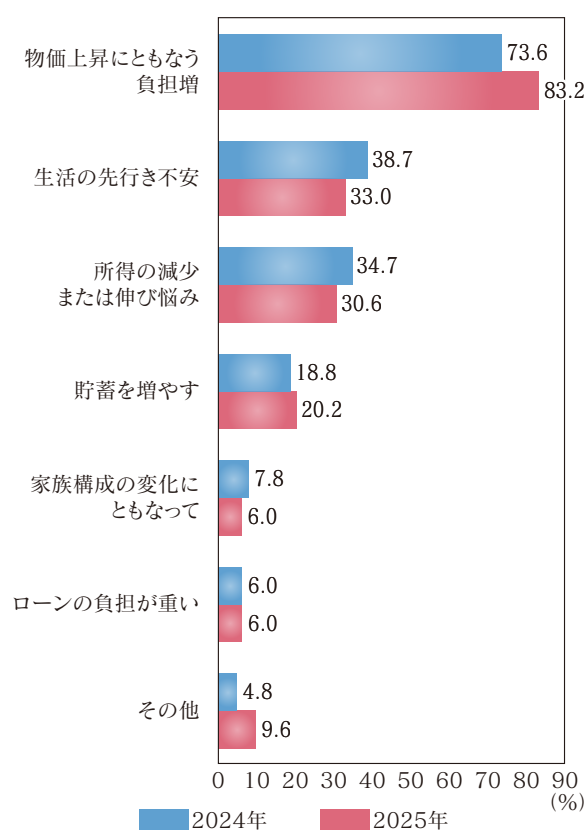
最も高くなった一方、70歳以上では回答がみられなかった。

家計支出を引き締める理由としては、「物価上昇にともなう負担増」(83.2%)に回答が集中し、他項目を50ポイント以上上回った(図表14)。次いで、「生活の先行き不安」(33.0%)、「所得の減少または伸び悩み」(30.6%)が3割を超えた。

昨年調査との比較では、「物価上昇にともなう負担増」は9.6ポイント上昇した。反面、「生活の先行き不安」が5.7ポイント、「所得の減少または伸び悩み」が4.1ポイント、それぞれ低下した。

前述のとおり、来年の世帯収入は改善のペースが加速する見込みとなっているものの、食料品など生活必需品を中心とする物価の上昇により家計への負担が増しているため、支出への慎重な姿勢が続くものと考えられる。

図表14 家計支出を引き締める理由(複数回答)



4 物価上昇による家計への影響

「大きい」「やや大きい」の合計は89.0%

物価上昇による家計への影響では、「大きい」(46.1%)と「やや大きい」(42.9%)に回答が集まり、合わせた割合は89.0%となった(図表15)。「まったくない」とする回答はみられなかった。

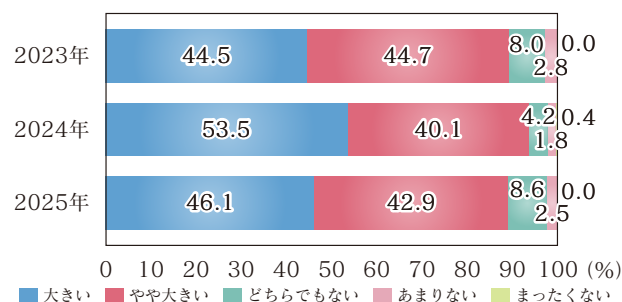
昨年調査との比較では、「やや大きい」は2.8ポイント上昇したものの、「大きい」が7.4ポイント低下したため、「大きい」と「やや大きい」の合計は4.6ポイント低下した。

物価の上昇に対する収入の増減では、「物価の上昇に収入の増加が追いついていない」(44.9%)が最も高くなった(図表16)。

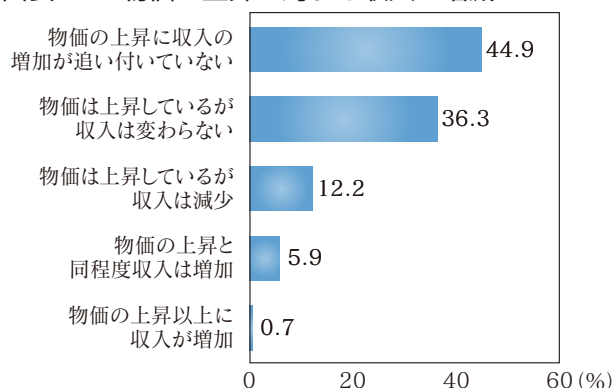
「物価高」に関する自由意見では、回答をベースとしたテキストマイニングは図表18のとおりとなっている。回答では、コメなどの食料品のほか、ガソリン、灯油といった生活必需品の物価が上昇し、生活に負担が重くのしかかっている様子が見て取れる。

現在と比較した1年後の物価予想では、「やや上がる」(46.2%)と「上がる」(43.0%)がともに4割台となり、合わせた割合は89.2%となった(図表17)。

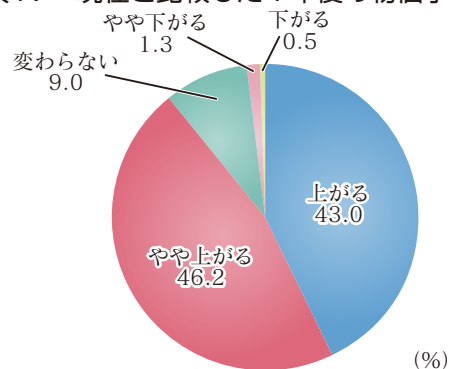
図表15 最近の物価上昇による家計への影響



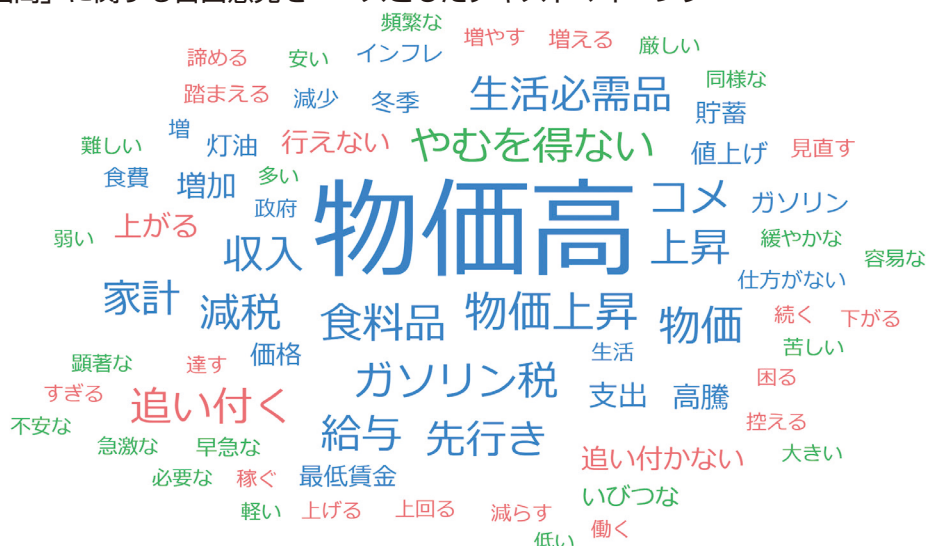
図表16 物価の上昇に対する収入の増減



図表17 現在と比較した1年後の物価予想



図表18 「物価高」に関する自由意見をベースとしたテキストマイニング



(注) ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析 (<https://textmining.userlocal.jp/>)

5 耐久消費財の購入

購入した世帯割合は2年ぶりに上昇

過去1年間に耐久消費財を購入した世帯割合は59.8%と、昨年調査(56.3%)を3.5ポイント上回り、2年ぶりに上昇した(図表19)。

年代別購入割合では、30代と70歳以上がともに66.7%と最も割合が高く、次いで、50代(62.6%)、40代(62.5%)、60代(52.3%)、29歳以下(46.3%)と続いた。

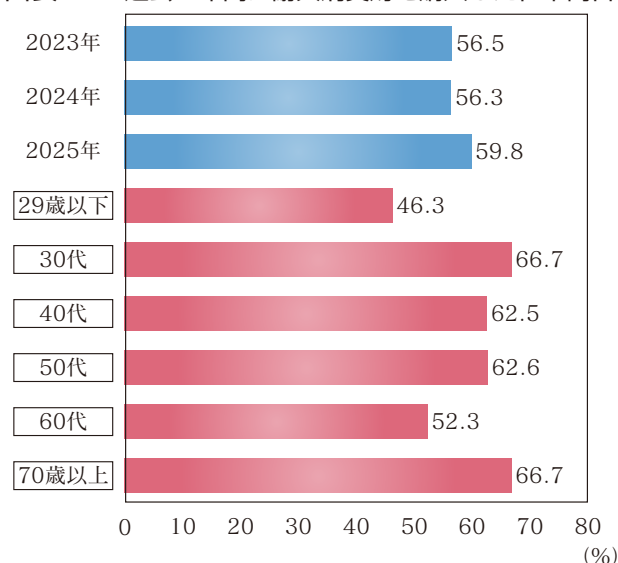
購入した耐久消費財としては、購入割合が高い順に、「スマートフォン」(36.1%)、「エアコン」(25.1%)、「乗用車」(24.5%)となり、3年連続で同じ品目が同じ順番で上位に並んだ(図表20)。「エアコン」は、今夏の猛暑に加え、「あきた省エネ家電購入応援キャンペーン第3弾」(2025年5月開始)の対象商品であることも購入割合の上昇に寄与したようだ。

昨年調査との比較では、「タブレット」(8.1%)

が3.3ポイント、「スマートフォン」が2.9ポイント、「パソコン」(10.4%)が2.7ポイント、それぞれ上昇した。広く普及していたパソコンのソフトウェアのサポートが本年10月に終了したため、買い替え、代替需要が生じたものと考えられる。

(相沢 陽子)

図表19 過去1年間に耐久消費財を購入した世帯割合



図表20 過去1年間に購入した耐久消費財(複数回答)

